

広島県三次市方言

日高 水穂

項目		基本情報
話者 情報	生年	1942年
	生育地	広島県三次市三和町
	性別	女
	補足情報	上記生育地に18歳まで居住。19～25歳の間、鳥取市、西宮市、大阪市、広島市に居住し、25歳以降、山口県に居住。
解説	概要	広島県の方言は県東部の備後方言と県西部の安芸方言に大別される。三次市は県北東部にあり、市域の大部分は備後方言域に含まれる。話者は長く山口県に居住しており、普段の日常生活では方言色の薄いことばづかいをしているが、テオル系の継続形として- Chol (山口方言)ではなく- Toru (広島方言)を用いること、「行くまい」にあたる否定推量形としてイカマー (山口方言)ではなくイクマー (広島方言)を使用することなどから、広島方言の特徴を残している (山口方言の影響をあまり受けていない) と見なせる。調査では、自分のきょうだい (兄・姉) が話すことばをイメージして回答してもらった。
	表記	カタカナ音声表記とし、特殊な表記は使用していない。
	文法概説	<p>◆助詞を後接する場合、前接語の末尾音によって以下のような音変化が生じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助詞オを後接：前接語の末尾母音がaではア段長音 (例文39,48)、iではウ段拗長音 (例文1,2,3,4,11,13,14,15,16,20,21,23,46)、uではウ段長音 (例文16)、eではミショー (店を)、テヨー (手を) のようにオ段拗長音 (神鳥1983)、oではオ段長音 (例文6,10,17,47) になる。前接語の末尾音が撥音の場合、小西 (2017) では音変化は起こらずブンオ (文を) のようになっているが、この話者は無助詞 (例文24,25,30) になっている。 ・助詞ワを後接：前接語の末尾母音がaではア段長音 (例文11)、iではア段拗長音 (例文12,15,28,36)、uではア段長音 (例文5,40)、eではア段拗長音 (例文37,38,50)、oではア段長音 (例文12,13,14,15,20,22,43) になる。前接語の末尾音が撥音および長音の場合、音変化は起こらない (例文7,21,24,25,35)。 ・助詞エを後接：前接語の末尾母音がi・eではエ段長音 (例文11,16,41,49) になる。 <p>◆以下のような音便形が使用される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多段型w/φ語幹動詞：シモータ (しまった/例文45)、コーテモロータ (買ってもらった/例文30)。 ・多段型s語幹動詞：ダータ (出した/例文17)。 ・形容詞：ノーテ (なくて/例文43)、タノシュー (楽しく/例文33)、ワルーテ (悪くて/例文31)、ヨー (よく/例文34,42)、タコー (高く/例文30)、モノスゴー (ものすごく/例文28)。

<p>解説</p>	<p>文法概説</p>	<p>◆引用助詞が省略される(例文41,42,49,50)。</p> <p>◆継続形は進行(例文24)を-ヨル、結果(例文25)、習慣(例文14)、思考状態(例文41,49)を-トルで表す。</p> <p>◆動詞の否定形は断定非過去形を-ン(例文11)、断定過去形を-ダッタ、-ナンダ、-ンカッタ(例文13)、仮定形を-ダッタラ、-ナンダラ、-ンカッタラ(例文15)、中止形を-ンコーニ、-イデ、-ント(例文14)で表す。当為表現(しなければならない)に用いられる仮定形は-ネバに由来する-ニヤー(例文46)を用いる。</p> <p>◆コピュラはジャ(だ/例文27,32,32,34,38,42,44,47)、ジャッタ(だった/例文36)、ジャロー(だろう/例文8,15,29,37,49)を使用する。形容名詞述ではナを終止形(終止類断定非過去形)として使用する(例文47)。</p> <p>◆推量形式はジャローの他、オワッタロー(終わっただろう/例文15)、ヤスカロー(安いだろう/例文29)のような形を使用し、これらにジャー(ナーカ)を後接した形も推量を表す。動詞の意志形は単独では推量の用法で用いにくいがフロージャー(ナーカ)(降るだろう/例文8)のようにジャー(ナーカ)を後接すると推量の意味で用いることができる。</p> <p>参考文献 神鳥武彦(1983)「広島県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学8 中国・四国地方の方言』国書刊行会 小西いずみ(2017)「要地方言の活用体系記述 広島県三次市方言」方言文法研究会編『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』科研費研究成果報告書</p>
-----------	-------------	--

〔基本例文50〕 広島県三次市方言訳

方言訳1 (もっともよく使う表現)	方言訳2 (使うこともある表現)	備考・コメント
1 イマカラ トモダチー テガミュー カク。		トモダチニが融合してトモダチーとなる。テガミオのioが融合してテガミューとなる。
2 フデデ テガミュー カク モンモ オル。		テガミオのioが融合してテガミューとなる。
3 ウチエー インデ スグ テガミュー カータ。	ウチー インデ スグ テガミュー カータ。	ウチエのieが融合してウチエーとなる。テガミオのioが融合してテガミューとなる。インデはイヌル(帰る)の中止形。イヌルの活用型はシヌル(死ぬ)と同様の多段特殊型。
4 カータ テガミュー ナンベンモ ヨミナオス。		カイトのaiが融合してカータとなる。テガミオのioが融合してテガミューとなる。
5 ヨラー ジュージン ナツタラ サツサトネンサイ。	ヨラー ジュージン ナツタラ サツサト ネーヤ。	ヨルワが融合してヨラーとなる。方言訳1のネンサイは「寝なさい」相当。命令形は方言訳2のネー(ヤ)だが男性が使うイメージのことばとのこと。
6 アブナーケー シャドー アルキンサンナ。	アブナーケー シャドー アルクナ。	アブナイのaiが融合してアブナーになる。シャドーオのooが融合してシャドーとなる。ケーは原因・理由の接続助詞。方言訳1のアルキンサンナは「歩きなさるな」相当。禁止形は方言訳2のアルクナだが男性が使うイメージのことばとのこと。
7 コノ ホンワ タローニ ヤロー。		
8 ヒルカラ アメガ フルジャロー。	ヒルカラ アメガ フロージャー。 ヒルカラ アメガ フロージャーナーカ。	方言訳1は「雨になるだろう」相当。「だろう」に相当する推量形式はジャロー。意志形のフローに「ではないか」にあたるジャー(ナーカ)が後接する形も推量を表す。
9 ハルン ナリヤー ハナガ サク。		ナレバが融合してナリヤーとなる。
10 ハナコガ マドー アケタラ ムシガハーッテ キタンヨ。		マドオのooが融合してマドーとなる。ハイッテのaiが融合してハーッテとなる。
11 アサー アンマシ テレビュー ミン。		アサワが融合してアサーとなる。テレビオのioが融合してテレビューとなる。動詞の否定非過去形はーン。
12 ハナカー ソガーナ バングミヤーミヤーセン。		ハナコワが融合してハナカーとなる。ソガイナのaiが融合してソガーナとなる。バングミワが融合してバングミヤーとなる。ミワセンが融合してミヤーセンとなる。「なんか」にあたる形式は不使用とのこと。
13 ハナカー キノー テレビュー ミダッタ。	ハナカー キノー テレビュー ミナンダ。 ハナカー キノー テレビュー ミンカッタ。	ハナコワが融合してハナカーとなる。テレビオのioが融合してテレビューとなる。動詞の否定過去形はーダッタ、ーナンダが古くから使う形でーンカッタは新しい。

14	ハナカー テレビュー ミンコーニ ホン バッカシ ヨンドル。	ハナカー テレビュー ミーデ ホンバッカシ ヨンドル。 ハナカー テレビュー ミント ホンバッカシ ヨンドル。	ハナコワが融合してハナカーとなる。 テレビオのioが融合してテレビューと なる。動詞の否定中止形(付帯状況) は-ンコーニ、-イデ、-ントを使 用。継続形(習慣)は-トル。
15	テレビュー ミダツタラ コノ シゴター キョージュニーヤー {オワツタジャロー /オワツタロー/オワツタロージャー/オ ワツタロージャーナーカ}。	テレビュー ミナダラ コノ シゴター キョージュニーヤー オワツタジャロー。 テレビュー ミンカツタラ コノ シゴター キョージュニーヤー オワツタジャロー。	テレビオのioが融合してテレビューと なる。シゴトワが融合してシゴターと なる。キョージュニーワが融合して キョージュニーヤーとなる。動詞の否 定仮定形は-ダツタラ、-ナダラが 古くから使う形で-ンカツタラは新し い。「だろう」に相当する推量形式は ジャロー。他に断定過去形+ローの形 も推量を表す。断定過去形+ローに ジャー(ナーカ)を後接した形も推量 を表す。方言訳1のみ文末の推量表現の バリエーションを示した。
16	ネツウ ダータ コドメー クスリュー ノマシタ。		ネツオのuoが融合してネツウとなる。 コドモエのoeが融合してコドメーとな る。クスリオのioが融合してクス リューとなる。
17	オカーサンガ イモートー ツカーニ イ カシタ。	オカーサンガ イモートー ツ カーニ ダータ。	イモートオのooが融合してイモートー となる。ツカイのaiが融合してツカー となる。方言訳2のダータは「出す」の イ音便形ダイタのaiが融合したもの。
18	オトートト ケンカシテ ウチダケ オ トーサンニ シカラレタ。	オトートト ケンカシテ ウチダ ケ オトーサンニ オーメダマ クロータ。	一人称代名詞はウチを使用。ウチは女 性語で男性はワシを使用する。
19	ルスチューニ ドロボーガ ハーッタン ヨ。	ルスチューニ ドロボーニ ハー ラレタンヨ。	方言訳1のハーッタン、方言訳2のハー ラレタンヨはそれぞれハイッタン、ハイ ラレタンのaiが融合した形。方言訳1は能動態の 表現。受動態の方言訳2よりも自然との こと。
20	コノ カー マダ コマーガ イタシー カンジュー カケル。	コノ カー マダ コマーガ イ タシー カンジュー ヨー カ ク。	コワが融合してカーとなる。コマイ (小さい)のaiが融合してコマーとな る。カンジオのioが融合してカン ジューとなる。イタシーは「難しい」 の意。方言訳2のヨー カクは「上手に 書く」の意。ヨーのアクセントは「高 低」となり、否定文に用いられる例文 22のヨー(低高)とは異なる。
21	キョーワ ジカンガ アルケー ユックリ テガミュー カケル。		テガミオのioが融合してテガミューと なる。
22	コノ カー マダ コマーケー ヒラガナ シカ カケン。	コノ カー マダ コマーケー ヒラガナシカ ヨー カカン。	コワが融合してカーとなる。コマイ (小さい)のaiが融合してコマーとな る。ケーは原因・理由の接続助詞。方 言訳2のヨー カカンのヨーのアクセ ントは「低高」となり、肯定文に用いら れる例文20のヨー(高低)とは異なる。 。
23	ツクエガ ナーケー ジュー シャント カケン。		ナイのaiが融合してナーとなる。ジ オのioが融合してジューとなる。ケー は原因・理由の接続助詞。

24	タローワ イマ トナリノ ヘヤデ ホン ヨミヨール。		継続形（進行）はーヨルで、基幹イ段 形（ヨミ）と融合してヨミヨールとな る。
25	タローワ ハナコニ カシテモロータ ホ ン ハー シマイマデ ヨンドル。		「借りた」は「貸してもらった」に相 当するカシテモロータが自然とのこ と。ハーは「もう」に相当する副詞。 継続形（結果）はートル。
26	モチート シズカナ トコデ ネムリ ター。		ネムリタイのaiが融合してネムリター となる。
27	ユーヤケデ ソラガ アカー。	ユーヤケデ ソラガ マッカ ジャー。	アカイのaiが融合してアカーとなる。
28	コドモン トキヤー ヒトリデ ベンジョ エ イクンガ モノスゴー コワカッタ。		トキワが融合してトキヤーとなる。 「ものすごく」が音便形のモノスゴー になる。
29	ウドンヤ ソバナラ ヤシージャロー。	ウドンヤ ソバナラ ヤスカ ロー。 ウドンヤ ソバナラ ヤスカロー ジャー。 ウドンヤ ソバナラ ヤスカロー ジャーナーカ。	ヤスイのuiが融合してヤシーとなる。 「だろう」に相当する推量形式はジャ ロー。他に語幹+カローの形も推量を 表す。語幹+カローにジャー（ナー カ）を後接した形も推量を表す。
30	フルホンヤデ ホン タコー コーテモ ロータ。		「高く」が音便形のタコーとなる。 「買って」「もらった」はウ音便形の コーテ、モロータとなる。
31	テンキガ ワルーテ ダレンモ コン。		「悪くて」が音便形のワルーテとな る。
32	モチート ヤスケリヤー コータンジャ ガ。	モチート ヤスケリヤー コーン ジャガ。	ヤスケレバが融合してヤスケリヤーと なる。「買ったのに」が、方言訳1は 「買ったんだが」、方言訳2は「買うん だが」にあたる表現になっている。方 言訳2では「買う（カウ）」がコーと なっているが、連母音のauが融合して オ段長音になったもの。「買うことに する」はコーコトニスル、「買う人」 はコーヒト。
33	ヒトリデ アソビー イッテモ タノ シューナー。		「楽しく」が音便形のタノシューとな る。
34	テンキサエ ヨー ナリヤー デカケラレ ルンジャガ。		ヨクが音便形のヨーとなる。ナレバが 融合してナリヤーとなる。
35	タローワ マダ チューガクセージャ。		
36	コドモン トキヤー センエンデモ タイ キンジャッタ。		トキワが融合してトキヤーとなる。
37	コリヤー ドロポーノ アシアトジャ ロー。	コリヤー ドロポーノ アシアト ジャロージャー。 コリヤー ドロポーノ アシアト ジャロージャーナーカ。	コレワが融合してコリヤーとなる。 「だろう」に相当する推量形式はジャ ロー。ジャローにジャー（ナーカ）を 後接した形も推量を表す。
38	ソリヤー ウチノ カサデ アリヤー セ ンセーノ カサジャ。		ソレワ、アレワが融合してソリヤー、 アリヤーとなる。一人称代名詞はウチ を使用。ウチは女性語で男性はワシを 使用する。

39	モシ アシタ テンキナラ コドモラー ツレテ ドッカ イコーヤー。		テンキのみで「いい天気」の意味になる。コトドモラオのaoが融合してコドモラーとなる。ラは複数接尾辞。
40	コノ カサト クツァー ウチンジャー ナー。		クツワが融合してクツァーとなる。ナイのaiが融合してナーとなる。一人称代名詞はウチを使用。ウチは女性語で男性はワシを使用する。
41	A : アシタモ コケー クルカネ。 B : ウン コヨー オモートル。		ココエのoeが融合してコケーとなる。「思う」は引用助詞が使用されない。継続形(思考状態)はートル。
42	A : ナシテ コンノン。クル ヨッタジャ ナーカ。 B : ゴメン。チート タイチヨーガ ヨー ナーンジャー。		ヨッタはイイヨッタの転訛形で、「言う」は引用助詞が使用されない。ナイのaiが融合してナーとなる。ヨクが音便形のヨーとなる。
43	A : アソコン オルナー タローカー。 B : イーヤ タロージャーノテ ジロー ジャーナーカ。		オルノワが融合してオルナーとなる。「なくて」が音便形のノーテとなる。ナイのaiが融合してナーとなる。
44	A : ドレガ アンタン カサナン。 B : コレガ ウチン カサジャー。		一人称代名詞はウチを使用。ウチは女性語で男性はワシを使用する。
45	A : コノホン ヨムンナラ カシチャル デ。 B : ソノ ホンナラ ハー ヨンデシモー タ。		「しまった」はウ音便形のシモータとなる。ハーは「もう」に相当する副詞。
46	A : トナリン イエー ドロボーガ ハーッタント。 B : エッ ソーナン。トナリー ハーッタ ンナラ ウチモ キュー ツケニヤー イ ケンノー。		ハーッタはハイッタのaiが融合した形。キオのioが融合してキューとなる。当為表現に用いられる動詞の否定仮定形は-ネバに由来する-ニヤー。
47	A : アメガ フリソージャーケー マドー シメトイテクレヤー。 B : ハー シメトイタデ。	A : アメガ フリソーナケー マ ドー シメトイテクレヤー。	マドオのooが融合してマドーとなる。ケーは原因・理由の接続助詞。「-そうだ」の断定非過去形は-ソージャと-ソーナの両形式が使用できる。ハーは「もう」に相当する副詞。
48	A : ソバー タベー イコーヤー。 B : ソバヨリ ウドンノ ホーガ エー ガ。		ソバオのaoが融合してソバーとなる。
49	A : イロハショテン ユー ホンヤガ ド ケー アルカ シラン。 B : シットルヨ。ムコーニ カンバンガ ミエルジャロー。		「という」は引用助詞が使用されずユーとなる。ドコエのoeが融合してドケーとなる。継続形(思考状態)はートル。「だろう」に相当する推量形式はジャロー。
50	A : ヒロシマナユーモン クータ コト アルカー。 B : ウン。アリヤー ホンマニ ウマーヨ ノー。		アレワが融合してアリヤーとなる。ウマイのaiが融合してウマーとなる。ヒロシマナ(広島菜)とは広島菜の漬物のこと。主題の「って」に相当する表現がなく、Aでは「広島菜というもの」、Bでは「あれは」に相当する表現になっている。